

風のてのひら

～南高だより No. 111～
令和3年11月25日発行
発行責任者：長崎県立五島南高等学校
校長 立木英邦

「校長室の窓から」

「人類の歴史」 ～集団の力で危機を乗り越えてきた～

11月に入り気温も下がり寒い日が多くなりました。この冬はラニーニャ現象の影響で例年以上に寒くなるといわれています。冬に備えた準備をする季節になりました。新型コロナウイルスの感染はどうか収まり、11月に入ってから県内の感染者もほとんど出ていない状況です。その要因としては、今年の春先から夏場に向けて新型コロナウイルスのワクチン接種も進み、そのワクチンの効果が出ているということと、第5波で猛威を振るったデルタ株が、ウイルス自体が死滅するウイルスに変異したためということがいわれています。しかし、ワクチンの効果は2回目の接種から半年経つと効果がかなり落ちるといわれており、また、人流も戻りつつあり、外国人の受け入れも再開されており、これから冬場に向けて第6波は必ずくるといわれています。我々は、気を緩めることなく新型コロナウイルスに対する意識をしっかりと持ち、感染防止対策を継続しなければならないと思います。

後期がスタートして1ヶ月以上経ちました。ここまで秋らしい天候にも恵まれ、体育祭、文化祭、マラソン大会等の学校行事を実施しました。どの行事も保護者や地域の皆様に支えていただき、生徒達も懸命に取り組み充実したものになりました。体育祭と文化祭は、学校行事の中でも二大行事に位置づけられており、生徒の人間的な成長を図るうえで高い教育効果が期待でき、学校におけるお祭りの側面を持つ行事です。お祭りは日本のどの地域においても行われ、全世界においてもそれぞれの地域でそれぞれの形で行われています。

お祭りは、世界のあらゆる地域で、その歴史の中で生まれ、人々によって受け継がれてきました。集団の力で絶滅の危機を乗り越えてきた人間にとって、お祭りは集団の力を維持していくために重要なものだったといわれています。



文化祭：総合文化部（音楽班）による演奏

人類が誕生したのは、およそ700万年前といわれています。その後、いくつもの種に枝分かれし、誕生と絶滅を繰り返しながら進化してきました。実は、人類の進化は、常に絶滅の危機と隣り合わせの過酷な道のりでした。その中で私たちにつながる祖先は、数々の偶然と幸運に導かれ、辛くも生き残ったのです。二足歩行を始め、やがて草原に進出した人類の祖先たちは飢餓に襲われ、肉食獣に食われる“弱者”でした。しかし実は、その逆境こそが人類を進化させたことが分かってきています。仲間と協力する集団の力、さらに石器という道具の発明がその進化を如実に示しています。

人類の中で現存する唯一の種である私たちは、ホモ・サピエンスと呼ばれていますが、およそ20万年前にアフリカで誕生したといわれています。私たちホモ・サピエンスの祖先たちがアフリカを出て、中東に進出したときに会ったのが、別種の人類ネアンデルタール人です。私たちの祖先とネアンデルタール人は交わりを持ち混血していたことがゲノム解析の結果判明しています。

ネアンデルタール人は、私たちホモ・サピエンスに最も近い人類の仲間ですが、40万年前頃にアフリカからユーラシア大陸に移動し独自の進化を遂げました。最大の特徴は、強靱な体を持ち、レスラーのように筋肉隆々で、マンモスやバイソンなど大型動物を狩る屈強なハンターだったといわれています。さらに近年、新発見が相次ぎ、言語を操り、高度な文化を持っていた可能性が高いことも明らかになりました。しかし、体力と知性を兼ね備えながら、およそ4万年前から3万年前に絶滅しました。

私たちホモ・サピエンスは、ネアンデルタール人に比べると華奢（きゃしゃ）で、力もひ弱でした。それにもかかわらず、祖先たちは生き残ることができました。その秘密は、実はその弱さにこそあったと考えられています。弱いからこそ、安全な狩りを行うことができる道具を生み出し、仲間同士で力を合わせる「協力」を高めたのだといわれています。そうして人口を増やしていったことで、脳の進化が促され、ホモ・サピエンスは全く新たな力「想像力」を獲得したと考えられています。

遺跡発掘調査の結果、ネアンデルタール人は十数名の家族単位で生活していましたが、ホモ・サピエンスは家族の枠を超えた数百人単位で生活していたことが分かっています。石器については、ネアンデルタール人が使用していたものは年代が変わってもほとんど変化がないのに対して、ホモ・サピエンスが使っていたものは年代とともにより鋭利で高性能なものになっています。また、ネアンデルタール人が絶滅した頃は、およそ10年おきに寒冷化と温暖化が繰り返される変動が激しい気候で、その変化に対応することができなかったネアンデルタール人に対し、ホモ・サピエンスは何千キロも離れた集団同士の交流も可能にして、お互いに助け合い

危機を乗り越えたと考えられています。ホモ・サピエンスは、この集団の力を生み、維持するためにお祭りを行っていたということが想像できます。

人類は、数百万年の歴史の中で、逆境を克服し進化を遂げ、数多くの危機を乗り越え、現代の繁栄を遂げています。それを可能にしたのは、「集団の力」と「道具・機器の発明（科学の発展）」です。今後も、全人類が協力し、科学を発展させることによって、危機を乗り越え、末永く生存し続けることを願いたいと思います。

日常生活の中でも、集団の意識を高く持ち、よりよい集団であることを願ひ協力し合うことが大切です。集団の良好な人間関係が築けるように、ルールを守り、周囲の人々を思いやり、無理に自分の考え方を押しつけることなく他の考えを尊重することが必要です。本校は、そのような集団となれるよう努力してまいります。引き続き保護者や地域の皆様のご理解とご協力をお願いします。

第53回 文化祭

輝け、みんなの笑顔 ～今しかできない挑戦を～

10月31日（日）、第53回文化祭が開催されました。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、一部のプログラムを除く形となりましたが、個人作品・各学年・総合文化部のステージ発表および作品展示は、どれも個性豊かで多くの人を楽しませてくれました。文化祭の準備から発表までの過程を通して、仲間との絆を深めた生徒、自己の可能性を広げた生徒など、たくさんの成長が見られました。

また、南高米の販売も行われ、多くの保護者の方に購入していただき、ありがとうございました。



1年生展示部門のみなさん

《長崎県教育委員会からのお知らせ》

県立高校や特別支援学校で、講師として働いてくださる方を随時募集しています。

詳しく知りたい方は、下記までお問い合わせください。また、このことについて、ご家族やお知り合いの方とも情報を共有していただけると幸いです。

詳しい募集状況については、右のQRコード、または『県立学校講師募集 長崎県』で検索してください。長崎県教育委員会のFacebookもフォローお願いします！

お問い合わせ先 高校教育課 県立学校人事班 TEL：095-894-3358



生徒会役員選挙

11月12日（木）に生徒会役員選挙が行われました。2年生12名、1年生6名が立候補し、「南高を有名にする」や『『ありがとう』が言える学校にする』など、南高の明るい未来を築く公約がたくさん掲げられました。また、生徒会に立候補することで自分自身を変えて積極的に行動を取りたいというチャレンジ精神が強い演説もたくさんおこなわれました。南高らしい「生徒が主役」を感じさせる演説会でした。

マラソン大会

11月17日（水）に校内マラソン大会が行われました。男子は約8km、女子は約4kmのコースを走りました。体がきつくなっても、心が折れそうになっても最後まで走り切る姿は、マラソン大会の目的の一つでもある、「自己に打ち克つ精神力の向上」が体現されたものでした。走り切った生徒の笑顔は、達成感に満ち溢れていました。

保護者、地域の方々からもあたたかい声援をいただき、ありがとうございました。



最後のマラソン大会を走る3年生

～12月の主な行事予定～

12月1日（水） 髪型服装指導
2日（木） お魚教室（3年）
6日（月） 薬物乱用防止教室
12月7日（火）～10日（金） 修学旅行（2年）

12日（日） 五島吹奏楽祭
18日（土） 県一斉テスト（1・2年）
対外模試（3年）
20日（月） 進路講演会（2年）
23日（木） レクリエーション大会（3～6校時）
24日（金） 全校集会 大掃除



ご相談やお気づきがありましたらいつでもご連絡ください。
五島南高校

電話 0959-82-0132
FAX 0959-82-0185

五島南高校メールメイトに是非ご加入ください。以下のアドレスに空メールを送ってご登録ください。

gotominami-t@m-mate.com

